

関連臨床医学 (3 年次生)

(1) 内科学総論	・・・・・・・・・・・・・・・・	129
(薬学部共修)		
(2) 外科学総論	・・・・・・・・・・・・・・・・	131
(薬学部共修)		
(3) 内科学各論	内科学 1	133
(薬学部共修)	内科学 3	135
	血液学	137
	感染症学	139
(4) 外科学各論	外科学 1	141
	外科学 2	143
(5) 隣接医学 I	皮膚科学	145
(薬学部共修)	眼科学	147
	耳鼻咽喉科学	149
	整形外科学	151
	形成外科学	153
(6) 隣接医学 II	小児科学	155
(薬学部共修)	産科婦人科学	157
	泌尿器科学	159
	精神神経科学	161
	脳神経外科学	163
(7) 隣接医学 III	人類遺伝学	165
	法医学	167

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25084501		
科目ナンバリング・コード	DNGD33171992		
授業科目名/(英語名)	内科学総論/ (Internal Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中尾一彦/kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp/病院8階消化器内科教授室/095-819-7482(内7482)/10:00~16:00 (実務担当:松島加代子/kmatsu@nagasaki-u.ac.jp/病院8階消化器内科医局/095-819-7481(内7481))			
担当教員(オムニバス科目等)	尾長谷 靖、宮崎 泰可、角川 智之、池田 喬哉、牟田 久美子、松島 加代子、柴田 英貴、三馬 聡、小澤 栄介、橋口 慶一		
授業の概要及び位置づけ 歯科医・薬剤師として必要な内科学総論(呼吸器、消化器、腎臓分野)			
授業到達目標 歯科医・薬剤師として最低限必要な内科疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患)に関する知識を習得する。			
授業方法(学習指導法) プリント、スライドを使った講義が主体。時にレントゲンフィルム、内視鏡写真を供覧する。			
授業内容 1回目 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患 2回目 肺癌 3回目 呼吸器感染症 4回目 間質性肺疾患 5回目 腎臓の解剖と機能 6回目 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全 7回目 上部消化管疾患 8回目 肝硬変と肝癌 9回目 下部消化管疾患 10回目 胆膵疾患 11回目 ウイルス性肝疾患			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 わかりやすい内科学(第4版) 井村裕夫編集 ¥9,450(文光堂) 参考書 内科学書(改訂第8版):全6冊+別巻(中山書店)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて評価する。出題範囲は基本的に講義内容と配布プリントの範囲。 レポートによる評価はない。 再試は1回行う。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	木	I	呼吸器病学 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患	尾長谷 靖	第1講義室
2回	4	13	木	I	呼吸器病学 肺癌	池田 喬哉	第1講義室
3回	4	20	木	I	呼吸器病学 呼吸器感染症	宮崎 泰可	第1講義室
4回	4	27	木	I	呼吸器病学 間質性肺疾患	角川 智之	第1講義室
5回	5	11	木	I	腎臓病学 腎臓の解剖と機能	牟田久美子	第1講義室
6回	5	18	木	I	腎臓病学 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全	牟田久美子	第1講義室
7回	5	25	木	I	消化器病学 上部消化管疾患	松島加代子	第1講義室
8回	6	1	木	I	消化器病学 肝硬変と肝癌	柴田 英貴	第1講義室
9回	6	8	木	I	消化器病学 下部消化管疾患	橋口 慶一	第1講義室
10回	6	15	木	I	消化器病学 胆膵疾患	小澤 栄介	第1講義室
11回	6	22	木	I	消化器病学 ウイルス性肝疾患	三馬 聡	第1講義室

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 金・I	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25084502		
科目ナンバリング・コード	DNGD33181992		
授業科目名/(英語名)	外科学総論/(Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 日高重和/hidaka-s@nagasaki-u.ac.jp/病院 11階腫瘍外科/095-819-7304(内 7304)/7:00～18:00 またはメールにて			
担当教員(オムニバス科目等)	安武 亨、山崎直哉、土谷智史、日高重和、角田順久、矢野 洋、宮崎拓郎、野中 隆、田浦康明		
授業の概要及び位置づけ			
外科学総論としての外科診断学、腫瘍学、創傷治癒、免疫学、感染学、栄養学の系統的講義を通じて、外科患者の診断、治療に対する理解を深める。			
授業到達目標			
外科の歴史、損傷と創傷治療、炎症と感染、腫瘍、外科栄養、免疫、体液変動、老人外科、小児外科の各分野について、基本的知識を習得し、理解する。			
授業方法(学習指導法)			
講義が中心になるが、理解を深めるため、PCによるプレゼンテーションを使用することもある。また、必要に応じてプリントの配布も行う予定である。			
授業内容			
1 回目 外科の歴史と外科医の立場:(1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見			
2 回目 損傷と創傷治療:(1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際			
3 回目 外科と栄養:(1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血:血液製剤の種類と特徴 外科的侵襲と生体反応:(1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程			
4 回目 臓器移植・人工臓器:呼吸器系の移植と人工臓器			
5 回目 炎症と感染:(1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因为菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療			
6 回目 体液と変動の輸液:(1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法			
7 回目 腫瘍:(1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学			
8 回目 外科と免疫:(1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染			
9 回目 老人外科・小児外科の特徴:(1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴			
キーワード	外科、腫瘍学、免疫学、炎症、感染、栄養、創傷治癒		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。再試は1回行う。 出席率も考慮する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において役に立つ外科的な基礎知識を習得することを目的としています。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	金	I	外科の歴史と外科医の立場 問診と外科的診察法 (1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見	日高重和	第1講義室
2回	4	14	金	I	損傷と創傷治療 (1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際	安武 亨	第1講義室
3回	4	21	金	I	外科と栄養 (1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血 (1)血液製剤の種類と特徴	角田順久	第1講義室
4回	4	28	金	I	臓器移植・人工臓器 呼吸器系の移植と人工臓器	宮崎拓郎	第1講義室
5回	5	12	金	I	炎症と感染 (1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 外科的侵襲と生体反応 (1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程	山崎直哉	第1講義室
6回	5	19	金	I	体液の変動と輸液 (1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法	矢野 洋	第1講義室
7回	5	26	金	I	腫瘍 (1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学	野中 隆	第1講義室
8回	6	2	金	I	外科と免疫 (1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染	土谷智史	第1講義室
9回	6	9	金	I	老人外科・小児外科の特徴 (1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴	田浦康明	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・I (一部木・V)	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084511		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学1)/(Internal medicine, Special Lecture)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川上 純/atsushik@nagasaki-u.ac.jp/病院9階第一内科教授室/095-819-7260(内7260)/金曜 午後			
担当教員(オムニバス科目等)	一瀬邦弘、岩本直樹、堀江一郎、宮崎禎一郎、辻野 彰、山崎浩則(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。			
授業到達目標			
受講生がリウマチ性疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。また内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。			
授業方法(学習指導法)			
講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。			
授業内容			
<p>1回目 リウマチ性疾患の内科学的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-1。</p> <p>2回目 リウマチ性疾患の内科学的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-2。</p> <p>3回目 内分泌疾患の基礎と臨床について、バセドウ病などの内分泌疾患の内科学的知識を講義して、歯科領域の注意点などを理解させる。</p> <p>4回目 糖尿病の成因・治療について、糖尿病の内科学的知識を講義して歯科領域の注意点などを理解させる。</p> <p>5回目 臨床神経学概説1: 歯科領域を中心に、脳神経の解剖・生理学をどうして、神経内科学の基礎知識を講義する。</p> <p>6回目 臨床神経学概説2: 脳血管障害で使用される抗凝固剤、抗血小板剤の知識を深く理解させる。</p>			
キーワード	リウマチ性疾患、臨床神経学、糖尿病、内分泌疾患		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-1	岩本直樹	第1講義室
2回	10	16	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-2	一瀬邦弘	第1講義室
3回	10	23	月	I	内分泌疾患 主な内分泌疾患の診断・治療について	堀江一郎	第1講義室
4回	10	30	月	I	糖尿病 糖尿病の成因・治療について	山崎浩則 (非常勤講師)	第1講義室
5回	11	6	月	I	神経疾患 臨床神経学概説1: 歯科領域の神経解剖	宮崎禎一郎	第1講義室
6回	11	9	木	V	神経疾患 臨床神経学概説2: 脳血管障害について	辻野 彰	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084512		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学3)/(Internal medicine, Cardiovascular disease)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 河野浩章/hkawano@nagasaki-u.ac.jp/循環器内科医局/095-819-7288(内7288)/9:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	恒任 章、小出優史、土居寿志、河野浩章、池田聡司		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯学部学生にあつては、循環器疾患を理解し、循環器疾患を有する患者に歯科治療を行うとどのような影響があるのか、歯科診療に際して注意すべき点など、実際の歯科診療に必要な知識を学習して欲しい。薬学部にあつては、循環器疾患を理解し、治療薬として使われる薬剤の作用機序を理解し薬剤に対する理解を深めて欲しい。</p>			
授業到達目標			
<p>循環器内科学の医療従事者としての一般的な知識を習得することが第一の目標となる。循環器疾患を有する患者への歯科治療や投薬治療を行う際に、歯科医師・薬剤師として知っておくべき知識、注意が必要な点、治療薬物の薬効について習得する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>基本的には板書およびパソコンにて講義するが、話し尽くせない分はプリントを活用する。</p>			
授業内容			
<p>1回目 弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎</p> <p>2回目 虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞</p> <p>3回目 心電図・不整脈:左室肥大、右室肥大、期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD</p> <p>4回目 心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心不全</p> <p>5回目 高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、大動脈瘤、大動脈解離、高安病、閉塞性動脈硬化症、Buerger病</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>参考書 ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第2版 (Leonard S. Lilly、川名正敏他翻訳、メディカルサイエンスインターナショナル) 内科学 第9版(杉本恒明、矢崎義雄編、朝倉書店)</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>筆記試験にて行う。内容は講義した内容で客観問題(五肢択一または複数形式)。 60点以上を合格とする。再試験は1回行う。</p>		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	20	月	I	弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症 心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎	恒任 章	第1講義室
2回	11	27	月	I	虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞	小出優史	第1講義室
3回	12	4	月	I	心電図・不整脈:左室肥大、右室肥大、期外収縮、頻脈性不整脈、 徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD	土居寿志	第1講義室
4回	12	11	月	I	心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、 拡張型心筋症、心不全	河野浩章	第1講義室
5回	12	18	月	I	高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、 大動脈瘤、大動脈解離、高安病、閉塞性動脈硬化症、Buerger病	池田聡司	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084513		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(血液学)/(Internal medicine,Hematology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 波多智子/hatatmk@nagasaki-u.ac.jp/原爆後障害医療研究所・原研内科/直通 095-819-7111、大学病院・血液内科/直通 095-819-7380/木曜日 13:00～16:00			
担当教員(オムニバス科目等)	波多智子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>1.血液の構成成分およびその機能、さらに骨髄における造血について理解する。</p> <p>2.止血機構について理解する。</p> <p>3.赤血球の異常、種々の白血球の異常、出血性素因について解説し、血液疾患の中心である、貧血、白血病、リンパ腫、出血性疾患の病態や治療について理解する。</p>			
授業到達目標			
<p>1.歯科医(薬剤師)にとって診療上必要と考えられる血液学について理解する。</p> <p>2.血液の構成成分とその機能について説明できる。止血機構について説明できる。</p> <p>3.代表的血液疾患の病態について理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義形式にて行う。プリントを配布し、スライドを用いて講義する。可能であれば、ビデオも供覧する。			
授業内容			
<p>1回目 造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能／ 貧血の分類、病態及び治療について最新の知見を含め講義する。</p> <p>2回目 悪性リンパ腫・白血病の生物学的・臨床的概念／ 止血の機序とその破綻について最新の知見を含め講義する。</p>			
キーワード	造血幹細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血凝固異常、化学療法、造血幹細胞移植		
教科書・教材・参考書	<p>教科書 なし</p> <p>参考書 1. 講義録 血液・造血器疾患学(小澤敬也ほか、メディカルレビュー社)</p> <p>2. カラーテキスト血液病学(木崎 昌弘ほか、中外医学社)</p> <p>3. 血液学(三輪史朗ほか、文光堂)</p> <p>プリントを講義の前に配布する。</p>		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による定期試験で評価する。 再試験は、提出されたレポートの評価による(1回行う)。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	正常血球の種類とその機能について確認しておく、理解が深まると思われる。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	25	月	I	造血のしくみ・貧血 造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能/貧血の分類、病態及び治療	波多智子	第1講義室
2回	1	15	月	I	造血器悪性腫瘍・出血傾向 悪性リンパ腫・白血病の生物学的・臨床的概念/止血の機序とその破綻	波多智子	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 日程表のとおり	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084514		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(感染症学)/(Internal medicine, Infectious Diseases)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 泉川公一/koizumik@nagasaki-u.ac.jp/臨床感染症学/095-819-7730(内 7730)/9:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	泉川公一		
授業の概要及び位置づけ			
<p>1.感染症が成立するための3要素について学び、基本的な診断、治療、感染予防策について学ぶ。</p> <p>2.感染制御における標準予防策、経路別予防策について学ぶ。</p> <p>3.接触感染、空気感染する感染症について自験例を基に学ぶ。</p>			
授業到達目標			
歯科医、薬剤師が知っておくべき内科感染症の重要性を理解し、その治療の実際、ならびに、感染予防策を習得する。			
授業方法(学習指導法)			
プロジェクター及びプリントを使用。			
授業内容			
<p>1回目 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について 世界的な脅威となっている感染症を紹介し、抗微生物薬の開発の状況なども解説する。また、感染症の成り立ちに重要な基本3要素を学び、早期診断から早期治療が重要であることを解説する。特に、感染症の診断方法について講義を行う。</p> <p>2回目 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について 感染制御の基本である標準予防策の基本を学び、接触、飛沫、空気感染などの感染経路別予防策の内容と実践について具体例を示しながら解説する。</p>			
キーワード	感染症、接触感染、飛沫感染、空気感染、薬剤耐性微生物、抗微生物薬、感染制御		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポート(授業内容の理解度を評価する)		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	絶えず変化する感染症の現状と、歯科医、薬剤師として知っておくべき感染症のエッセンスについて講義を行います。将来、仕事に応用できる内容ですので、しっかり学習して下さい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	1	22	月	I	感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について	泉川公一	第1講義室
2回	1	23	火	I	感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について	泉川公一	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084521		
科目ナンバリング・コード	DNGD33201992		
授業科目名/(英語名)	外科学各論(外科学1)/(Surgery detailed explanations, Surgical Oncology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 日高重和/hidaka-s@nagasaki-u.ac.jp/病院 11階腫瘍外科医局/095-819-7304(内 7304)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	安武 亨、三浦 崇、谷川和好、山崎直哉、、土谷智史、矢野 洋、田浦康明		
授業の概要及び位置づけ			
外科各論としての食道外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科について、その基本的な事項を学ぶ。			
授業到達目標			
外科学の各分野の基本事項について理解すること			
授業方法(学習指導法)			
講義が中心になるが、理解を深めるため、PCによるプレゼンテーションを使用することもある。また、必要に応じてプリントの配布も行う予定である。			
授業内容			
1回目 心臓外科:先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療			
2回目 血管外科:急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療			
3回目 食道外科:食道通過障害・食道狭窄の診断と治療			
4回目 呼吸器外科(1):肺・胸膜の外科			
5回目 呼吸器外科(2):縦隔・胸壁の外科			
6回目 小児外科:先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療			
7回目 乳腺外科:乳癌の診断と治療			
キーワード	食道外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。 再試験は1回行う。 出席率も考慮する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において知っておくべき外科的な疾患とその治療内容を習得することを目的としています。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	月	Ⅲ	心臓外科 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療	三浦 崇	第1講義室
2回	10	16	月	Ⅲ	血管外科 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療	谷川和好	第1講義室
3回	10	23	月	Ⅲ	食道外科 食道通過障害・食道狭窄の診断と治療	安武 亨	第1講義室
4回	10	30	月	Ⅲ	呼吸器外科 肺・胸膜の外科	土谷智史	第1講義室
5回	11	6	月	Ⅲ	呼吸器外科 縦隔・胸壁の外科	山崎直哉	第1講義室
6回	11	13	月	Ⅲ	小児外科 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療	田浦康明	第1講義室
7回	11	20	月	Ⅲ	乳腺外科 乳癌の診断と治療	矢野 洋	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084522		
科目ナンバリング・コード	DNGD33201992		
授業科目名/(英語名)	外科学各論(外科学2)/(Surgery detailed explanations, Gastrointestinal Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 江口 晋/ sueguchi@nagasaki-u.ac.jp/病院移植・消化器外科医局/095-819-7316(内7316)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	金高賢悟、小林和真、山之内孝彰、日高匡章、小林慎一郎、足立智彦、大野慎一郎		
授業の概要及び位置づけ			
<p>外科治療の対象となる代表的な消化器疾患について講義する。外科治療の対象となる代表的な消化器疾患を学習し、臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる一般的知識を習得させる。臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる代表的な消化器系外科的疾患について、基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。消化器悪性腫瘍、特に食道、胃、大腸などの管腔臓器、ならびに肝臓、胆道、膵臓、甲状腺などの実質臓器に発生する腫瘍の病態を理解し、その診断・治療過程を学ぶ。</p>			
授業到達目標			
<p>消化器系悪性腫瘍、特に胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌の診断と治療について理解し、説明できる。 臨床的に頻度の高い疾患である胆石症、消化性潰瘍、良性食道疾患の診断と治療について理解し、説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
各疾患についてプリント資料、スライド、および術式についてはビデオも用いながら総括的な講義を行う。			
授業内容			
<p>1回目 胆嚢・胆道疾患 2回目 膵疾患 3回目 食道疾患 4回目 胃疾患 5回目 大腸・小腸疾患 6回目 肝疾患 7回目 甲状腺疾患</p>			
キーワード	胆石症、胆道癌、膵炎、膵癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、肝移植、甲状腺		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(12版、医学書院) 監修:北島政樹		
成績評価の方法・基準等	講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。 再試験は1回行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	特になし		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	27	月	Ⅲ	胆嚢・胆道疾患： 胆石と胆道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	大野慎一郎	第1講義室
2回	12	4	月	Ⅲ	膵疾患： 膵炎と膵癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	足立智彦	第1講義室
3回	12	11	月	Ⅲ	食道疾患： 食道疾患、特に食道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	金高賢悟	第1講義室
4回	12	18	月	Ⅲ	胃疾患： 胃疾患、特に胃癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林慎一郎	第1講義室
5回	12	25	月	Ⅲ	大腸・小腸疾患： 大腸癌および小腸疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林和真	第1講義室
6回	1	15	月	Ⅲ	肝疾患： 肝癌や肝移植の適応となる疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	日高匡章	第1講義室
7回	1	22	月	Ⅲ	甲状腺疾患： 外科治療の対象となる甲状腺疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	山之内孝彰	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084531		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (皮膚科学)/(Relational medicine I, Dermatology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 第1 講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 竹中 基/ m-take@nagasaki-u.ac.jp/病院皮膚科医局/095-819-7333(内 7333)/17:00~19:00 ※訪問の際は事前連絡すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	竹中 基、富村沙織、鋤塚 大		
授業の概要及び位置づけ 歯科医師として必要な皮膚科疾患の知識の習得。			
授業到達目標			
授業方法(学習指導法) スライドによる講義。			
授業内容 1 回目 歯科金属アレルギーと皮膚疾患 2 回目 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー 3 回目 日常的によくみる皮膚腫瘍			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験 有		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	水	I	皮膚病と口腔粘膜 歯科金属アレルギーと皮膚疾患	富村 沙織	第1講義室
2回	10	11	水	I	アレルギー 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー	竹中 基	第1講義室
3回	10	18	水	I	皮膚腫瘍 皮膚科が関わる口腔疾患__特に膠原病、腫瘍、水疱症について	鋤塚 大	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 木・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084532		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (眼科学)/(Relational medicine I, Ophthalmology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 限上 武志/ktakeshi@nagasaki-u.ac.jp/病院 10 階眼科医局/095-819-7345(内 7345)/木曜 14:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	限上 武志		
授業の概要及び位置づけ 代表的な眼疾患について理解する。眼科救急疾患を理解する。医療従事者として知っておくべき眼疾患を習得する。			
授業到達目標 眼科学の概要を身につける。 概要: 始めに視覚に関する器官の解剖と生理を解説する。その上で、眼科領域の代表的な疾患を紹介する。			
授業方法(学習指導法) スライドによる講義。			
授業内容 1 回目 眼球及び視覚伝達路の構造とその機能について修得する。眼科検査法一般について修得する。 2 回目 眼科領域の感染症。角膜疾患、白内障、緑内障などの前眼部疾患。 3 回目 網膜剥離、糖尿病網膜症、高血圧眼底、循環障害などの後眼部・眼底疾患。			
キーワード	眼、視覚、視路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書1. 標準眼科学 第13版 医学書院 2. 現代の眼科学 第12版 金原出版		
成績評価の方法・基準等	レポート評価の6割以上をもって合格とする。出席率、追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	ぜひ興味をもって受講して頂きたいと思います。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	30	木	V	眼球及び視覚伝達路の構造とその機能について修得する。眼科検査法一般について修得する。	隈上武志	第1講義室
2回	12	7	木	V	眼科領域の感染症。角膜疾患、白内障、緑内障などの前眼部疾患。	隈上武志	第1講義室
3回	12	14	木	V	網膜剥離、糖尿病網膜症、高血圧眼底、循環障害などの後眼部・眼底疾患。	隈上武志	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (耳鼻咽喉科学)/(Relational medicine I, Otorhinolaryngology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 高橋晴雄/htak08310831@nagasaki-u.ac.jp/病院耳鼻咽喉科医局/095-819-7349(内 7349)/火曜 19:30			
担当教員(オムニバス科目等)	高橋晴雄、金子賢一、藤山大祐		
授業の概要及び位置づけ			
<p>耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖、生理、疾患に対する理解を深める。</p>			
授業到達目標			
<p>1.耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖、生理、疾患について説明することができる。 2.耳鼻咽喉科医に対し、適切な症例に関するコンサルテーションを行うことができる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
資料はプリントの配布。講義はスライド、ビデオなどを供覧し行う。			
授業内容			
<p>1回目 頭頸部がんの診断と治療 2回目 耳の構造と聞こえのしくみ 3回目 鼻、副鼻腔の構造と疾患</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 新耳鼻咽喉科学(南山堂)		
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取組状況30点、レポート70点		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	25	水	I	頭頸部がんの診断と治療	金子賢一	第1講義室
2回	11	1	水	I	耳の構造と聞こえのしくみ	高橋晴雄	第1講義室
3回	11	8	水	I	鼻、副鼻腔の構造と疾患	藤山大祐	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (整形外科科学)/(Relational medicine I, Orthopedics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松林昌平/bayazarov@gmail.com/病院整形外科医局/095-819-7321(内 7321)/16:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	富田 雅人、松尾 洋昭、松林 昌平		
授業の概要及び位置づけ 主要整形外科疾患の病態の把握。骨・関節の疾患の病態の把握。			
授業到達目標 運動器疾患の正確な診断と理解を深める。			
授業方法(学習指導法) スライドまたはプリントを使って行う。			
授業内容 1 回目 運動器疾患の総論 (富田) 2 回目 上肢の主要な外傷と疾患の解説 (松尾) 3 回目 下肢の主要な外傷と疾患の解説 (松林) *担当教員は平成 29 年 6 月以降に変更の可能性あり			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 整形外科サブノート:南江堂 東宏彦他著 2. 標準整形外科科学:医学書院 中村利孝他監修		
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験は1回行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	講義の時に配られるプリントを良く勉強して下さい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	15	水	I	整形外科総論 運動器疾患の総論	富田	第1講義室
2回	11	22	水	I	上肢の障害 上肢の主要な外傷と疾患の解説	松尾	第1講義室
3回	11	29	水	I	下肢の障害 下肢の主要な外傷と疾患の解説	松林	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (形成外科学)/(Relational medicine I, Plastic and Reconstructive Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 第1 講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田中克己 / katsumit@nagasaki-u.ac.jp / 病院形成外科教授室/095-819-7325(内 7325)/17:00~19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	田中克己、矢野浩規		
授業の概要及び位置づけ			
<p>身体外表の異常を機能的・形態的に再建し、患者の社会復帰を促すという形成外科治療についての理解を深めさせる。第1回目では形成外科概論、創傷治癒、組織移植総論および組織移植各論について講義する。第2回目では皮膚および軟部組織修復に関する講義を行い、併せて人工医用材料を含めた様々な再建術式を紹介する。</p>			
授業到達目標			
<p>形態異常のハンディキャップとしての特殊性をよく理解し、どのようなものが形態異常の原因となりうるのか。また、皮膚形成術や組織移植術に対する基礎的知識の理解とその応用、人口医用材料の利点と問題点、ならびに臨床における応用などについて深い知識の習得を目的とする。</p>			
授業方法(学習指導法)			
レジュメを配布し、パワーポイントを用いた講義を行う。			
授業内容			
<p>1 回目 形態異常と形成外科の発生、形成外科概論、組織移植の基礎、創傷治癒の基礎 2 回目 人工医用材料、皮膚形成術、組織移植術の臨床応用</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	標準形成外科学 第6版:平林慎一・鈴木茂彦 編集、医学書院 6090 円 TEST 形成外科学 第2版:藤原豊美 編集、南山堂 9064 円		
成績評価の方法・基準等	出席率及びレポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	6	水	I	形態異常と形成外科の発生、形成外科概論、組織移植の基礎、創傷治癒の基礎	矢野	第1講義室
2回	12	13	水	I	人工医用材料、皮膚形成術、組織移植術の臨床応用	田中	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・IV	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084541		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(小児科学)/(Relational medicine Ⅱ, Pediatrics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊達木澄人/ sdatekil@nagasaki-u.ac.jp /病院小児科医局/095-819-7398(内 7398) /			
担当教員(オムニバス科目等)	伊達木澄人・本村秀樹(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>小児は身体が単に小さいだけでなく、様々な生理的な特徴を持っています。その小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもにとって重要なからだの成長についても考えていくようにします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようにする。</p>			
授業到達目標			
<p>小児の特徴がわかり、救急処置について理解する。 小児の成長のメカニズムと成長障害について理解できる。 小児によく診られる感染症、染色体異常(ダウン症など)などの疾患について理解できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
プリントとPC プロジェクターを用いて解説を行う。			
授業内容			
<p>1 回目 小児の身体的特徴を理解する。呼吸、循環の特徴と小児の救急処置について理解する。 2 回目 小児の成長と発達、肥満症について理解する。 3 回目 小児の疾患とくに、感染症、染色体異常症について理解する。</p>			
キーワード	小児の特徴、救急処置、成長、肥満、ダウン症、感染症		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準小児科学(医学書院)		
成績評価の方法・基準等	3回の講義について筆記試験もしくはレポートで評価する。再試験は1回のみ行う。 出席率、追試験、は学部規則に沿って行う。 再試験は1回のみ行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	小児を診るうえで重要な項目であるので復習をしっかりとすることが望ましい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	月	IV	こどもの特徴・小児救急 小児の身体的特徴を理解し、小児の循環、呼吸について確認する。こどもの救急処置について学ぶ。	本村 秀樹	第1講義室
2回	10	16	月	IV	こどもの成長、発達 こどもの新生児からの成長と発達について理解を深める。	伊達木澄人	第1講義室
3回	10	23	月	IV	こどもの疾患 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症について学ぶ。	伊達木澄人	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・IV	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084542		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(産科婦人科学)/(Relational medicine Ⅱ, Obstetrics and Gynecology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 長谷川ゆり/y.hase0901@gmail.com/病院産婦人科医局/095-819-7363(内7363)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	下村友子、村上優子、北島百合子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>産科婦人科学は婦人科腫瘍学、周産期医学、および生殖医学を三本柱とする。これらに関する「常識」を身につける。</p> <p>○生殖医学／周産期医学 生殖とは生物が自分の分身を作って種族の保存をはかることである。ヒトにとっても生物的側面をささえる基本的な営みといえよう。妊娠が成立するためには、実にたくさんの要素が複雑かつ巧妙に調節される必要がある。逆にたくさんの要素がひとつひとつうまくかみ合わないと妊娠は成立しない。最終的に新しい生命が誕生するまでの長く神秘的な妊娠のプロセスの中にも、幾多の困難が待ち受けている。以上のようなことについて学習する。</p> <p>○婦人科腫瘍医学 婦人科で扱う腫瘍は、範囲が狭い臓器でありながら多彩な組織像を呈する。正常組織であっても女性の性周期や妊娠に伴った変化が加わるためその組織像は複雑である。 腫瘍が発生する過程を理解するために、まずは女性性器の発生に関する基本的知識を修得し、さらに各腫瘍における疫学、組織像について最近の話題を含めて学習する。</p>			
授業到達目標			
生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍医学についての基本的知識を修得する。			
授業方法(学習指導法)			
講義形式で行う。スライドを中心に講義し、適宜プリントの配布等を行う。			
授業内容			
<p>1回目 生殖医学／周産期医学(1) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常1</p> <p>2回目 生殖医学／周産期医学(2) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常2</p> <p>3回目 婦人科腫瘍医学(1) 女性性器の発生学、卵巣腫瘍、卵巣癌</p> <p>4回目 婦人科腫瘍医学(2) 子宮頸癌、子宮体癌</p>			
キーワード	腫瘍、HPV、病理像、妊娠、分娩、胎児、受精、不妊症		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を実施する。 100点満点で60点未満を不合格とする。 再試験は1回のみ行う。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
備考(学生へのメッセージ)	生命の誕生からその終焉までを診る学問である。生殖や妊娠には倫理的問題が関わる場合も少なくない。新聞などのニュースでこれらの問題について触れ、そのことについて自分なりに考えることが重要である。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	30	月	IV	生殖医学／周産期医学(1) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常1	下村友子	第1講義室
2回	11	6	月	IV	生殖医学／周産期医学(2) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常2	下村友子	第1講義室
3回	11	13	月	IV	婦人科腫瘍医学(1) 女性性器の発生学、卵巣腫瘍、卵巣癌	村上直子	第1講義室
4回	11	20	月	IV	婦人科腫瘍医学(2) 子宮頸癌、子宮体癌	北島百合子	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084543		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(泌尿器科学)/(Relational medicine Ⅱ, Urology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 宮田康好/yasu-myt@nagasaki-u.ac.jp/病院泌尿器科医局/095-819-7340(内7340)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	宮田康好、大庭康司郎、松尾朋博		
授業の概要及び位置づけ			
腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。まず、1回目は総論として腎・泌尿器の解剖と機能および症候と検査法について講義する。2回目は泌尿器科で特に主要な疾患である泌尿器腫瘍の診断と治療について講義する。3回目はその他の疾患として、頻度の高いものを講義する。これらを通じて、泌尿器科診療の概要と実際に学び、最終的に泌尿器科学の重要性を理解し、説明できるようになることをめざす。			
授業到達目標			
1.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる。 2.腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。 3.腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。 4.主要疾患の治療法を概説できる。			
授業方法(学習指導法)			
スライドとプリントを使った講義。			
授業内容			
1回目 泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる			
2回目 泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる			
3回目 腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。			
キーワード	泌尿器科学、泌尿器科腫瘍、腎・尿路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 泌尿器科学(メジカルビュー社) 2. 標準泌尿器科学(医学書院)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価を行う。60点以上を合格とする。 評価で不可の場合は再度のレポート提出または口頭試問とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	できるだけ歯学や薬学の領域でも役に立つ講義内容にします。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	30	木	I	泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる	松尾朋博	第1講義室
2回	12	7	木	I	泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる	大庭康司郎	第1講義室
3回	12	14	木	I	腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。	宮田康好	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084543		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(精神神経科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neuropsychiatry)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小澤寛樹/ozawa07@nagasaki-u.ac.jp/大学病院 12階精神神経科教授室/095-819-7293(内7293)/水曜 12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	黒滝直弘(予定)、今村 明		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリケアでも重要で歯科領域において認められやすい精神と行動の障害に関する症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて学ぶ。(不安、うつ、統合失調症、認知症、小児・思春期における精神障害など) ・精神現象の複雑さを知り、患者との十分な心のふれあいの大事さを理解する。 ・プライマリケアにおける精神医学的症状の把握に必要な情報を知り、精神障害への理解を深め、偏見・差別の軽減に努める。 			
授業到達目標			
歯科領域にとって必要な精神科疾患の概要を紹介し、疾患及び罹患した患者への理解を深める。			
授業方法(学習指導法)			
スライドやVTRなどを利用しながら講義を行うが、受講学生の授業への積極的参加を期待して討論を行う。			
授業内容			
<p>1回目 「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」</p> <p>メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説</p> <p>統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療</p> <p>2回目 「子どもに見られる精神障害」</p> <p>小児・思春期における精神障害を中心に、症候や診断、治療について解説する</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. ICD-10「精神・行動の障害」マニュアル(中根充文、岡崎祐士著、医学書院、1994) 2. 標準精神医学(野村総一郎、樋口輝彦著、医学書院)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(主にレポート評価100%) 再試験:無		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	具体的な症例を挙げながら、精神科と歯科、薬科がどのように結びついてくるのか考察を深めていきます。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	21	木	I	「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」 メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説 統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療	黒滝直弘	第1講義室
2回	12	28	木	I	「子どもに見られる精神障害」 小児・思春期における精神障害を中心に症候や診断、治療について解説する	今村 明	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 水・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084545		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(脳神経外科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neurosurgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松尾 孝之/takayuki@nagasaki-u.ac.jp/病院 10階脳神経外科医局 095-819-7375(内線 7375、3101)/17:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田光一、氏福健太		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科診療に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患に関して概説し、歯科、口腔外科領域に隣接する頭頸部の外傷、脳卒中、腫瘍、疼痛性疾患の病態、診断、治療法を学び、鑑別診断ができる能力を養う。</p>			
授業到達目標			
<p>頭部外傷、脳卒中などの脳神経外科的救急疾患についての基本的知識を得る。頭頸部の腫瘍につき理解する。三叉神経痛に対する脳外科治療について理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
主としてPCプレゼンテーションにて行う。			
授業内容			
<p>1回目 頭部外傷、脳卒中など脳神経救急疾患について概説する。 2回目 三叉神経痛に対する脳外科治療について概説する。</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	出席率、レポート等により行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	急患等の対応のため、講義担当者が変更になることがある。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	13	水	V	頭部外傷 頭部外傷、脳卒中など脳神経外科救急疾患について概要する。	吉田光一	第1講義室
2回	12	20	水	V	三叉神経痛 三叉神経痛に対する脳神経外科治療について概説する。	氏福健太	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084551		
科目ナンバリング・コード	DNGD33231992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅲ(人類遺伝学)/(Relational medicine III, Human Genetics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 近藤新二/kondos@nagasaki-u.ac.jp/歯学部C棟7階・薬物治療学/095-819-8574(内8574)/火・水曜 9:00~17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	近藤新二		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。</p> <p>(分子)遺伝学は、メンデルにより導入された抽象的な概念としての遺伝子(メンデルのいう要素)に、その具体的物質的基盤である分子の正体(DNA など)が判明することにより爆発的に発展した。遺伝学は、遺伝情報の違いや変化(多様性、変異、進化)、遺伝情報の伝え方(伝達、形式)、遺伝情報の働き方(現象)などを扱うが、これはまさに生命現象の基本であるため、遺伝学の素養を身につけることは生物学やその応用としての医学や歯学を学ぶためには必須となろう。ゲノム、遺伝子の構造から遺伝の仕組み、遺伝形式、遺伝子変異と疾患、多因子疾患の特徴およびゲノム医学について学ぶ。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の概念やゲノムの概念について理解し、説明できる。 2. 遺伝学がどのような学問であるのかについて理解し、説明できる。 3. 遺伝学的疾患分類について理解し、説明できる。 4. 遺伝子の構造と遺伝子発現システムについて説明できる。 5. 遺伝の原理について説明できる。 6. 遺伝子変異や多型についての概略やそれらを説明できる。 7. 多因子疾患について概略を説明できる。 8. ミトコンドリア遺伝やエピジェネティクスについて理解し、説明できる。 9. 薬剤応答性遺伝子多型と薬物血中濃度や治療効果との関連について概略を説明できる。 10. 遺伝子診断や個別化医療について概略を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
教科書は指定せず、授業計画に沿った説明やプリント、スライドで授業を進める。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 遺伝の原理と遺伝形式 (1) 2 回目 遺伝の原理と遺伝形式 (2) 3 回目 遺伝子と遺伝子変異、分子病理 4 回目 ゲノムの多様性 5 回目 多因子疾患における分子遺伝学 6 回目 遺伝の原理と遺伝形式 (3) 7 回目 ゲノム医学 薬理遺伝 個別化医療 進化医学 			
キーワード	ゲノム, ミトコンドリア, 遺伝形式, 遺伝子変異, 多因子疾患, 多様性, 遺伝子診断		
教科書・教材・参考書	教科書の指定はない。但し、参考書に以下の2冊を推薦する。 1. ヒトの分子遺伝学 第4版(MEDSi) 2. 遺伝医学やさしい系統講義 18講(MEDSi)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験で評価する。点数が60点以上を合格とする。再試あり		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	基本的知識は必要だが、その背景にある論理を理解してほしい。 授業で説明した内容は、その都度復習しておくこと。 高校生物未履修者は、該当分野を自習しておくこと。 授業の進行具合に応じては、授業内容が変更されることもあるが、その都度指示する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(1) メンデルの法則 単一遺伝子疾患 常染色体優性遺伝	近藤新二	第1講義室
2回	10	12	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(2) 常染色体劣性遺伝 X連鎖劣性遺伝	近藤新二	第1講義室
3回	10	19	木	I	遺伝子と遺伝子変異、分子病理 変異と多型 SNP	近藤新二	第1講義室
4回	10	26	木	I	ゲノムの多様性	近藤新二	第1講義室
5回	11	2	木	I	多因子疾患における分子遺伝学	近藤新二	第1講義室
6回	11	9	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(3) ミトコンドリア遺伝 後成的疾患 染色体異常	近藤新二	第1講義室
7回	11	16	木	I	ゲノム医学 薬理遺伝 個別化医療 進化医学	近藤新二	第1講義室

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・IV(一部火・IV)	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084552		
科目ナンバリング・コード	DNGD33231992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅲ(法医学)/(Relational medicine Ⅲ, Forensics Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 中留真人/nakatome@nagasaki-u.ac.jp/歯科法医学分野准教授室/095-819-8597(内 8597)/12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中留真人、櫻田宏一(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>社会生活において歯科法医学の役立つ場面が多々あることを知り、卒後必要となる歯科法医学的知識に関する講義とその応用例を学び、実際に対応できる能力を身につける。歯科医師として必要な法医学的知識を習得し、過去の様々な歯科法医学的個人識別事例を参考に、歯科所見による身元確認作業の方法を学ぶ。</p>			
授業到達目標			
口腔内所見による身元確認(個人識別)に関する歯科法医学的知識及び方法を修得する。			
授業方法(学習指導法)			
講座テキスト(プリント・小冊子)をもとに講義を進め、症例についてはスライドを使用し視覚的に理解を求める。講義項目ごとに学習課題を与え、その都度個人でその課題に取り組んでもらう。この課題については講義の中で解説する。			
授業内容			
<p>1回目 法医学(1):死体解剖と死因究明制度について講義する。 2回目 法医学(2):死体現象について講義する。 3回目 法医学(3):損傷、窒息、虐待等、歯科医師に必要な法医学的知識を習得する。 4回目 物体検査:最新の犯罪捜査における物体検査法について講義する。 5回目 歯科法医学的個人識別:骨形態や歯科所見からの個人識別について講義する。 6回目 遺伝標識による個人識別:DNA多型を利用した個人識別について講義する。 7回目 歯科所見による身元確認作業の実際について学ぶ。</p>			
キーワード	法医学、歯科法医学、死体現象、個人識別、物体検査		
教科書・教材・参考書	教科書:なし 参考書:1.学生のための法医学 2.歯科検視マニュアル		
成績評価の方法・基準等	筆記試験により判断する。 再試験は1回のみ行う。 採点には出席状況を参考にすることがある。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	歯科医師として必要な法医学及び歯科法医学の知識を習得し、その社会的役割について理解を深めてほしい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	27	月	IV	法医学(1)死体解剖と死因究明制度 歯科医師として必要な法医学について説明する。 歯科法医学の社会的必要性について説明する。	中留真人	第1講義室
2回	12	4	月	IV	法医学(2)死体現象 早期死体現象、晩期死体現象及び異常死体現象について説明する。 死後経過時間の推定について説明する。	中留真人	第1講義室
3回	12	11	月	IV	法医学(3)損傷、窒息、異常環境下での死、虐待等 歯科医師として必要な法医学的知識を習得する。	中留真人	第1講義室
4回	12	18	月	IV	捜査のための法科学 法医学における物体検査法について学習する。	櫻田宏一	第1講義室
5回	12	25	月	IV	歯科法医学的個人識別 骨形態や歯科所見からの個人識別について説明する。	中留真人	第1講義室
6回	1	15	月	IV	遺伝標識による個人識別 ABO式血液型やDNA多型について説明する。 DNA型を利用した個人識別や親子鑑定について説明する。	中留真人	第1講義室
7回	1	22	月	IV	歯科所見による身元確認作業の実際 口腔内所見の検査、歯科記録用紙への記入、死後記録と生前記録の照合作業などを体験し、鑑定書の作成方法を習得する。	中留真人	第1講義室